

事務連絡

平成26年8月1日

公益社団法人 愛知建築士会
会長 廣瀬 高保 殿

愛知県建設部長

大気汚染防止法の一部を改正する法律の施行等について（通知）

日頃は本県の建設行政につきまして、ご理解とご協力いただき御礼申し上げます。

石綿の飛散を防止する対策の強化を図り、人の健康に係る被害を防止するため、「大気汚染防止法の一部を改正する法律」が平成26年6月1日から施行されました。

つきましては、請負者が発注者へ調査結果を書面で説明する「参考様式1」及び、その調査結果を解体等工事の場所へ掲示する「参考様式2」を作成しましたのでご活用下さい。

担 当 建築技術・工事検査グループ
土木技術グループ
電 話 052-954-6615(ダイヤルイン・建築)
052-954-6507(ダイヤルイン・土木)
内 線 2890(建築)、2875(土木)

【参考様式1】

説 明 書

平成 年 月 日

(発注者)

殿

(請負者) 住 所

商号又は名称

代表者氏名

印

大気汚染防止法第18条の17第1項の規定により、当該解体等工事の事前調査の結果等に係る事項について下記のとおり説明します。

記

1 工 事 名

2 路線等の名称

3 工 事 場 所

4 説明内容 (施行規則第16条の7)

①調査を終了した年月日

②調査の方法

設計図書による確認

現場確認

分析調査による確認

③調査の結果

当該解体等工事が特定工事^{*}に該当しない

当該解体等工事が特定工事^{*}に該当する (別添による)

※特定工事とは、特定粉じん排出等作業を伴う建設工事をいう。

[担当者名・連絡先等]

1 担当者氏名

2 会社名、部・課名

3 電話番号

【別添】

当該解体等工事が特定工事に該当する場合の説明内容

- ①特定粉じん排出等作業の種類
- ②特定粉じん排出等作業の実施の期間
- ③特定粉じん排出等作業の対象となる建築物等の部分における特定建築材料の種類並びにその使用箇所及び使用面積
- ④特定粉じん排出等作業の方法
- ⑤特定粉じん排出等作業の対象となる建築物等の概要、配置図及び付近の状況
- ⑥特定粉じん排出等作業の工程を明示した特定工事の工程の概要
- ⑦特定工事を施工する者の現場責任者の氏名及び連絡場所
- ⑧下請負人が特定粉じん排出作業を実施する場合の当該下請負人の現場責任者の氏名及び連絡場所

法 18 条の 15
第 1 項
4~7

規則 16 条の 8
(10 条の 4
第 2 項)

大気汚染防止法第18条の17第1項による調査結果について

大気汚染防止法第18条の17第1項による調査結果を同法同条第4項の規定により掲示します。

(請負者) 住 所：
名 称：
代表者氏名：

1. 調査を行った者

2. 調査を終了した年月日

3. 調査の方法

4. 調査の結果

当該解体等工事が特定工事に該当する

(特定建築材料の種類：)

当該解体等工事が特定工事に該当しない

地域で住宅の耐震化に携わっている方へ

耐震化アドバイザー養成講座

受講者募集

耐震化に関する専門的な知識を得るための講義やグループワークを行い、地域において住宅の耐震化に関する専門的なアドバイスを行う人材を養成する「耐震化アドバイザー養成講座」を開催します。2006年からスタートし、今年で9年目を迎えました。

本講座を修了した方には「耐震化アドバイザー」として、それぞれの地域で、住宅の耐震化に関する活動を担っていただくことを期待しています。

(建築CPD単位認定申請中。【申請先】建築士会、建築技術教育普及センター)

耐震化アドバイザーの役割

- ①地域で、耐震診断及び耐震改修の必要性をPRする
- ②地域で、家具の転倒予防や住宅の耐震化に関する相談・助言を行う
- ③地域の自主防災組織の活動の中で、建築の専門的アドバイスを行う

● 募集要項 ●

- 開催日程 10月12日(日)、26日(日)、11月9日(日)、12月7日(日)の全4回、時間につきましては裏面をご覧ください。
- 会場 名古屋大学減災連携センター『減災館』(名古屋市千種区不老町)
名古屋都市センター(名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル)
- 受講対象 愛知県内に在住又は在勤の建築士で、地域の住宅の耐震化に意欲のある方
- 定員 90名(先着順)
- 受講料 無料(ただし、グループで活動する場合の費用等は、実費負担)
- 申込期間 2014年8月25日(月)~9月26日(金)18:00まで(当日消印有効)
※ただし、定員になり次第締め切ります。
※8月25日以前の日付があるファックス、8月25日以前の消印がある郵送物は無効です。
- 申込方法 所定の申込書に必要事項を記入し、下記申込先までファックス又は郵送でお申し込みください。(メール不可)
※申込書と一緒に、「建築士」の資格を証するもののコピーを添えてください。
- 申込書ダウンロード先
愛知建築地震災害軽減システム研究協議会HP <http://www.aichi-gensai.jp/>

申込先 NPO法人耐震化アドバイザー協議会(耐震化アドバイザー養成講座運営事務受託者)
問合先 〒456-0042 名古屋市熱田区須賀町203番地
TEL 052-683-6312 FAX 052-683-6418

- 受講確定連絡 受講確定者には10月7日(火)頃に受講票を発送します。定員を超えて受講ができなかった場合にも、その旨をお知らせします。

講座修了の方には…

本講座のすべてのカリキュラムを受講し、かつ、レポートを提出した方には修了証が授与され、「耐震化アドバイザー」として本協議会に登録します。また、登録内容を「耐震化アドバイザー名簿」に掲載し、本協議会ホームページで公開するとともに、各市町村建築担当部局等にPRします。

● カリキュラム ●

日	日程・会場	時間	講義のテーマ	
1	10/12(日) 名古屋大学減災 連携センター 『減災館』	10:00~	開講式	
		10:15~12:00	①耐震化アドバイザーの目的と役割	
		13:00~15:05	②減災館見学・グループミーティング	
		15:20~16:50	③防災一般知識	
2	10/26(日) 名古屋 都市センター	10:30~12:30	④被害実例から見た耐震化の課題	
		13:15~14:45	⑤耐震改修の実務	
		15:00~16:00	⑥木造住宅の耐震改修方法に関する今の取り組み	
		16:10~16:40	グループミーティング	
3	11/9(日) 名古屋 都市センター	10:30~12:00	⑦家具の転倒予防に関する実務	
		12:40~16:40	グループワーク ⑧耐震化実践計画づくり	
4	12/7(日) 名古屋 都市センター	一般公開	10:30~12:00	⑨耐震化の推進のための施策と取り組み
			12:45~14:15	⑩耐震化実践計画の発表会
			14:30~15:10	⑪耐震化アドバイザー活動報告会
			15:20~16:20	⑫記念講演
			16:20~	閉講式

※第3日の耐震化実践計画づくりに向けて、レポートを提出していただきます(詳細は講座の中で説明します)。

※第3日は、カリキュラムの都合上昼休みが短くなっています。

※第4日の午後からは、一般公開となります。

※会場内での飲食は禁止となっています、弁当持参の方は食べられる場所を前もって確認しておいてください。

申込書

耐震化アドバイザー養成講座の受講を、下記の通り申し込みます。

※★印のついている欄には、当てはまるものを○で囲んでください。

※申込書と一緒に、「建築士」の資格を証するもののコピーを添えてください。

フリガナ 氏名			年齢	歳
連絡先	・ 下欄に記載の連絡先は★(自宅・勤務先)			
	住所	〒		
	電話		FAX	
	E-mail			
勤務先名称				
現在持っている資格	・ 建築士★(一級・二級・木造)(登録番号) ・ 愛知県木造住宅耐震診断員(登録番号)			

申込先

NPO法人耐震化アドバイザー協議会(耐震化アドバイザー養成講座運営事務受託者)

〒456-0042 名古屋市熱田区須賀町203番地

TEL 052-683-6312 FAX 052-683-6418

団体献血のお願い

わが国の輸血医療は皆様の尊い命のボランティア「献血」によって支えられており、輸血用の血液を安定的に医療機関に供給するためには毎日多くの方々から献血のご協力をいただく必要があります。このような状況の下、団体による組織的な献血へのご協力は非常に大きな力となります。社会貢献活動の一環として、団体献血へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

団体献血のご協力について

献血ルームにて、ご協力をお待ちしております。成分献血、400mL 献血のご協力をお願いしております。

※3名様以上のご協力いただける場合

- ① 団体登録をさせていただき、ご協力実績を報告させていただきます。
- ② 弊社ホームページに「献血サポーター」としてお名前を掲載させていただきます。（献血サポーター制度に則り、貴団体のご希望に応じての掲載となります。）あわせてサポーターマークをご使用いただけます。（社会貢献活動のPRにご活用下さい。）
- ③ 送迎について：栄献血ルームにてご協力の場合、送迎をさせていただきます。
- ④ ご協力いただける場合の手順について：実施日（または期間）を設定いただき、ご協力いただける方を募集させていただきます。1時間あたり6名様まで対応させていただきます。できましたら、事前に名簿をご提出願います。

献血について

◎献血にかかる時間：400mL 献血の場合は50分ほど、成分献血の場合は100分ほどを要します。

◎献血の適否：健康状態及び海外渡航歴等により献血をお控えいただく場合がございます。医師の問診、血圧測定、ヘモグロビン濃度測定など、献血いただく方の健康に支障がないことを確認の上、献血いただきます。

◎献血いただいた方に血液検査（ γ -GTP、コレステロール、糖尿病など）の結果をお送りします。健康チェックにお役立ていただけます。

◎愛知県内の血液製剤供給量：赤血球製剤については、1日に400mL 献血およそ430人分と200mL 献血およそ70人分からつくられる赤血球製剤が医療機関に供給されています。また、血小板製剤については、1日におよそ130人分の献血からつくられる血小板製剤が供給されています。

《連絡先》 愛知県赤十字血液センター 栄献血ルーム

〒460-0008 名古屋市中区栄 3-15-33 TEL052-242-7030 FAX052-242-7075



命をつなぐ献血へのご協力ありがとうございます。



献血の基準について

健康な方ならば、献血による身体への影響はほとんどありません。しかし、体調をくずしていたり、健康状態の良くない時に献血をすると健康を損ねる場合があります。献血者の健康を守るためにさまざまな基準を設けています。

(献血基準)

項目	全血献血		成分献血	
	400mL献血	200mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	400mL	200mL	300mL～600mL (体重別)	400mL以下
年齢	男性17～69歳※ 女性18～69歳※	16～69歳※	18～69歳※	男性18～69歳※ 女性18～54歳
体重	男女とも50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上		
血圧	最高血圧90mmHg以上			
年間献血回数	男性3回以内 女性2回以内	男性6回以内 女性4回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	
年間総献血量	200mL献血と400mL献血を合わせて 男性1,200mL以内 女性800mL以内			

※65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験がある方に限られます。

(献血の間隔)

今回の献血	全血献血		成分献血	
	400mL献血	200mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血※
前回の献血	男女とも4週間後の同じ曜日 から献血できます		男女とも8週間後の同じ曜日 から献血できます	
200mL献血	男女とも2週間後の同じ曜日 から献血できます			
400mL献血	男女とも2週間後の同じ曜日 から献血できます			
血漿成分献血	男女とも2週間後の同じ曜日 から献血できます			
血小板成分献血	男女とも2週間後の同じ曜日 から献血できます			

※血漿を含まない場合には、1週間後に血小板成分献血が可能になります。ただし、4週間に4回実施した場合は次回までに4週間以上あけてください。

献血Q&A

※厚生労働省作成「けんけつHOP STEP JUMP」 「採血基準の改定に係るQ&A」参照

献血は誰でもできるの？

A. 献血者の健康面の安全を確保するため、また、輸血を受ける方の安全を守るために、献血を行っていただけるかの問診を行います。献血基準の主なものは、左図のとおりです。

また、輸血を受ける方の安全を守るため、HIV(エイズの原因となるウイルス)感染が疑われる方、輸血や臓器移植を受けた方、一定の期間に英国などへの海外滞在歴がある方等については問診で確認し、献血をご遠慮いただいています。

献血の際に、病気がうつることはありませんか？

A. 衛生環境は厳重に管理しているため、心配ありません。

献血をする時に使われる針や血液のバッグなどは、献血者一人ごとに新しいものと交換されますので、ほかの献血者から肝炎ウイルスやHIVなどがうつる心配は絶対にありません。

初めての献血ですが、400mL献血でも大丈夫ですか？

A. 献血前に医師が問診により健康状態を伺い、血圧や血色素量(ヘモグロビン濃度)を測定して、採血基準に適合するかどうかを判断しますので、ご安心ください。ちなみに、人間の血液量は一般的に男性で体重の約8%、女性で体重の約7%といわれており、例えば、体重50kgの方であれば、男性は約4,000mL、女性は約3,500mL血液が流れています。

医学的にみて全血液量の15%以内が失われても問題がないことが報告されていますので、男性600mL、女性525mLまでの献血は問題ないこととなります。

医療の現場では、どれくらい400mL献血の血液製剤を必要としているのでしょうか？

A. 全国の医療機関への赤血球製剤の供給は、約90%が400mL献血由来の血液製剤となっており、

みんなで行こう！

